小学校五年の部　第一席

マタギのおきてから学んだこと

弘前市立大成小学校　高山京慧

対象作品／金治直美著『マタギに育てられたクマ』佼成出版社

みなさんは〝クマ〟と聞いて、どんなことを思い浮かべますか？

きっと〝こわい〟、〝きょうぼう〟というイメージがほとんどだと思います。ぼくもこの本を読むまでは、同じことを考えていました。だから、そんな動物を育てているなんて、変な人だなぁ。と思いながら本を読み始めました。

この本の主人公、吉川さんは、〝マタギ〟という昔ながらのおきてを守りながら狩りをする人です。「狩りは命をかけて行うもの」という思いが胸にあるため、え物は必要な分しかとりません。いつも山の神様への感謝を忘れず、めぐみをあたえてくれる山を大切に守り続けています。

ある日、狩りに出かけた吉川さんは、母グマをしとめてしまい、二匹の子グマを育てることになりました。本当は大きくなったら山へもどすつもりでしたが、人間になれすぎてしまったため、クマたちの魂が山の神様のもとへ帰るまで、〝命〟を引き受けることにしたのです。なぜなら、それが〝マタギ〟としての自分の責任だと考えたからです。

ふいにぼくは、春にワラビとりへ行った時のことを思い出しました。そこら中にワラビが生えていて、全部とってやるぞ！と、夢中でとっていたら、いきなりお母さんに、

「こら！小さいものは来年のために残さないとだめでしょう！」

と、おこられたのです。

その時はよく意味が分からなくて、こんなにあるんだからべつにいいじゃないか、としか思わなかったけれど、あの時のお母さんの言葉の意味がやっと理解できました。お母さんはマタギじゃないけれど、山を守るためにはどうすればいいのかをちゃんと知っていて、それをぼくにも教えてくれたのです。

人間は自分たちのくらしを便利にしようと環境破壊をしてきたくせに、今ではさかんに環境保護をさけんでいます。ぼくは、人間は自分勝手でわがままぎる、と思いました。一

人一人がお母さんや吉川さんのように、ほんの少し気をつけるだけで、自然を守ることができるのにな、と悲しくなりました。

ゴミを減らす、リサイクルをするなど、環境保護のためにできることはたくさんあります。でも、今ぼくたちに一番必要なのは、マタギのおきてだと思います。なぜなら、みんなが自然に対して感謝の気持ちをもっていれば、環境保護はあたりまえに行われるはずだからです。ぼくは、これから山へ行くときはマタギのおきてを思い出し、自然は人間だけのものではないということを、忘れずに行動しようと思います。人間は自然があってこそ、生きていけるのだから。